
関学2019年度・現代史④ 2019年5月7日(火)
「アジア・太平洋戦争期の神戸華僑」 飛田雄一(ひだ ゆういち)hida@ksyc.jp

●今日のテーマは、「アジア・太平洋戦争期の神戸華僑」

Q1 「華僑」と「華人」はどう違う？

Q2 神戸「南京町」は、なぜ「外国人居留地」のはずれにある？

Q3 中国人の仕事の題字は道具、三把刀(さんぱとう、三刀)？

・1993年8月4日放映、NHK、

「若者たちの旅／初めて知った戦争③

－神戸華僑たちの日中戦争－夫たちが連れていかれた」(45分)

- 1) 在日中国人3世の若者が華僑の老人を訪ねる
- 2) 1941年より、内務省が日本に住む外国人の日常的に監視。居住の制限も。
- 3) 福建省出身の華僑12名が「スパイ容疑」で逮捕され、中には曾根崎警察署で拷問死した方もいる。
- 4) テレビ局が、ただひとりの生存者を香港を訪ねる。



「1944年8月、神戸の華僑に大きな弾圧が加えられました。呉服の行商をしていた神戸の華僑13名が「スパイ容疑」で逮捕され、うち6名が拷問により拘留中または釈放後に死亡しました。そのおひとり陳守海さん(1908年福建省生まれ)は終戦7カ月前の1945年1月、大阪曾根崎警察署で命を奪われています。

NHK「夫たちが連れて行かれた～神戸・華僑たちと日中戦争」(1993.8.4、45分)で初めてその真相が遺族とただ一人の生存者(游振文さん)によって語られました。

その陳守海さんの娘さん・林珠榮さん(1941.6神戸市生まれ、姫路市在住)が、2011年、『落涙成珠～ある華僑の詩』(2011.6、晃洋書房)を出版されました。母・林木宋さん(1916.10生まれ)と林珠榮さん母娘2代の生活史

をつづったものです。そのテレビ番組では林木宋さんは、曾根崎警察で夫・陳守海さんの変わり果てた遺体と対面したときの様子を語られています。」(2012年、神戸学生青年センターでの林木宋さん 林珠榮さんをお迎えしての講演会のチラシより、)

踏みにじられた差し入れ

しばらくして母が、義常さんに「お父さんに弁当を差し入れて来てくれないか」と頼んできた。纏足の母は人混みを分けて大阪まで出かけることはとても無理であったし、末の妹を妊娠していて体調もあまりよくなかった。義常さんは「うん、行く」とすぐに答えた。父に会いたかったし、電車に乗って大阪まで行くのも楽しみだったのだ。するとすぐ下の妹の春宋さんが、「私も行く」と言いだした。1人よりは心強いような気がして、妹と2人で行くことにした。当時、神戸中華同文学校に通っていた義常さんは周囲の大人に行き方を尋ね、母が持たせてくれた弁当を下げて神戸駅から電車に乗った。駅も車内も人であふれていた。8歳の義常さんは、はぐれないように2歳下の春宋さんの手をしっかり握って、車窓の景色に目をこらしていた。大阪までは1時間近くもかかっただろうか、肩に下げた差し入れの弁当が次第に重くなり、何度もずり上げて持ち直している、妹が「お腹へったね」と言った。配給の食糧ではどうい一家の空腹を満たすことはできず、母が苦勞して手に入れて来た食糧もわずかなも

のでしかなかった。そのわずかの食糧を少しずつ取り分けてようやく作った握り飯には、会いに行けない母の父を思う気持ちがこめられていた。それでも、8歳と6歳の空腹の子どもには、弁当の誘惑はあらがいがたいものであった。「ちょっとだけ食べるか?」と言うと、妹は嬉しそうに「うん!」と答えた。弁当の包みをそっとあけて、3つあったオニギリのうちを1つ取り出し、また蓋をしてカバンにもどした。オニギリを2つに割って妹に片方を渡した。子どもながらも罪悪感にさいなまれながら、1口、2口とほおぼって食べた。空腹にみる美味しさだった。妹の嬉しそうな顔を見て、優しいお父さんはきっと許してくれるだろうと思った。

大阪駅で環状線に乗り換えて、森ノ宮駅で降りた。一歩ずつ一歩ずつ父に近づいているという嬉しさで、道を尋ねながら歩いてやっと大阪府警本部にたどり着き、入り口で「父に会いに来た」と告げると、しばらく待たされた後、1人の若い刑事が出て来た。「何しに来たんや」と言われて、「お父さんに会わせて下さい」と言ったら、何も答えずにじろじろと眺められ「取調中やからあかん」と言われた。やっと会えると思っていたので、落胆は大きかったが、刑事の高圧的な態度が恐く、何を言うこともで

きなかった。勇気を出して、「そしたらこれをお父さんに渡して下さい」と弁当を差し出すと、黙って受け取ったその刑事は、その弁当しばらくながめた後、突然床に投げ捨て、いきなり足で踏みつけたのである。びっくりした。すぐに我に返った後、「なにするんや!」と言って刑事の足に飛びかかったが、あっさり突き倒されてしまった。妹が大きな声で泣き出した。するとそばにいた年配の刑事が「タケウチ、やめたれや、子どもやないか」と言って、手を引いて起こしてくれた。「お父さんには、よう言うといたるから、今日はお帰り」と言って、そのまま手をとって建物から外に連れ出してくれた。「小さいのに2人でよう来たな。まあなあ、今はこんな時やからな、しんぼうしてええ子にして待っとったら、そのうちお父さんも家に帰らしてもらえるやろうから、がまんして待とき」。そう言って大阪府警の前の市電の停留所まで一緒に歩いてくれた。そして別れ際にはポケットから鉛筆を出して、2人に1本ずつくれたのだった。

道々、その刑事に慰められ鉛筆をもらって気を取り直すことができたのは、まだ8歳と6歳の子どもだった。妹としっかり手をつないで大好きな電車に乗り、車窓をながめながら話している間は、父のことを忘れていたように思う。しかし、電車が神戸駅にすべりこんで改札を出た時には、父に会えなかったこと、母がようやく作った弁当を刑事に踏みつぶされたことを思い出して、悔しい気持ちと母に申し訳が立たないという気持ちで、しきりに話しかけてくる妹にも何も答えることができなくなっていた。「ただいまー」と元気よく妹が玄関の戸を開けて駆け込む後ろで、うつむいていた義常さんを認め、妹を脇に抱き留めたまま手を差し出して「お帰り」と言う母の顔を見上げた時に、こらえていたものが堰を切ったようにあふれ出し、涙で何も言うことができなかった。お父さんは? お父さんに会えたか? と聞く母に、事の次第を泣きながら話した。母は、何も言わずに義常さんを抱きしめてくれた。

「神戸福建同郷懇親会
半世紀の歩み」 2013.10.15
(493 ~ 494頁)



神戸華僑歴史博物館内部

神戸港の開港(一八六八年)とともに居留地に欧米人が商館を開いていったが、彼らとともに長崎や上海、香港などから華僑の一団も神戸に移ってきた。華僑は居留地に住み始めたため、その周辺に中国人街を形成していった。それがいまでは、観光客で連日にぎわう、活気あふれる南京町となった。

神戸で生活を始めた華僑たちは、上海や香港で培った経験を生かし、欧米人に必要な理髪店、飲食店、洋服仕立て業、ペン塗装業、洋家具製造、印刷業など、当時の神戸に合った技術を提供していった。また、船会社の代理店、為替仲買業など貿易実務も展開していった。このように華僑たちは、神戸を国際貿易都市として発展させるのに大きな役割を果たしたのである。華僑は「落地生根」の言葉通り、故郷を遠く離れた土地に根を下ろし、その土地の人たちとともに生きてきたのである。

神戸華僑歴史博物館は、一九七九年一月、神戸中華総商會ビル(RCビル)の落成と同時に開館した。初代の

もまれていたが、一九九八年亡くなられている。RCビル一〇階には、資料室があり、まだ整理されていない文献や、工芸品、書物などが多数所蔵されている。

二〇〇二年七月に三代目の館長に王柏林さんが就任し、博物館改装と展示物・資料の整理のために神戸華僑を中心

に資金を集められ、当時、神戸大学教授だった安井三吉さんに余人のメンバーによって、改装工事と整理作業が開始された。改装、展示品の更新など以外に、約一五〇箱の資料整理がおこなわれた。現在の展示内容は「神戸華僑の歴史」として、「神戸開港と中国人の渡来」「辛亥革命と華僑」「華僑社会の発展」「抗日戦争と華僑」「華僑社会の復興」「共生共栄の時代に生きる」となっている。さらに、「神戸華僑の経済活動」

③ 神戸華僑歴史博物館と南京町

館長となったのは、一九一七年神戸生まれの華僑である陳徳仁さんだった。陳さんが個人的に収集された中国に関する資料を展示したことが、この博物館の開館の契機になった。また、他の華僑から資料等の提供もあった。陳さんは、中国文化や神戸華僑の歴史について熱心に研究され、著書に『文と神戸』(神戸新聞総合出版センター)他があり、舞子公園にある孫中山記念館(移情閣/現孫文記念館)の副館長



南京町

「華僑と神戸の燦々産業」「華僑の文化」「神戸中華同文学校の百年」「開常廟」「南京町」「神阪中華義荘」「呉錦堂」「日本の華僑」「華僑とスポーツ」「世界華商大会」となり、神戸と華僑とのかわりや、神戸の開港から現在にいたるまでの歴史を約二〇〇点の写真・文献・生活用品などでわかりやすく解説している。

この神戸華僑歴史博物館は、神戸での華僑の足跡をたどりながら、一般にあまり知られていない華僑の世界を垣間見られるようになっていく。華僑が自ら運営にあたり、ボランティアアクトなどおこなっている。世界的にも珍しい博物館である。

(前川修)



神戸華僑歴史博物館
神戸市中央区海岸通 3-1-1
KCC ビル 2 階
TEL: 078-331-3855
開館時間: 10:00 ~ 17:00
休館日: 水、土、日曜日及び祝日
年末年始
入館料: 一般 300 円 中高大学生 200 円

神戸華僑関係地図

- 1 神戸中華同文学校 (1899年創立)
現校舎 (1959年建立) [「神阪中華会館」(1893-1945) 所在地]
- 2 神戸華僑幼稚園
- 3 関帝廟
- 4 神戸華僑総会 (華僑会館)
〈「神戸中華青年会」所在地〉
- 5 留日神戸華僑総会
- 6 (社) 中華会館 (1998年建立)
- 7 神戸華僑歴史博物館 (KCCCLJ2階)
- 8 (社) 神戸中華総商会 (KCCCLJ
1979年建立) 〈旧「広業公所」所在地〉
- 9 (社) 日華実業協会
- 10 神阪中華義荘
- 11 (財) 福建会館 (福建公所)
- 12 (社) 兵庫県台湾同郷会 (キタビル2F)
- 13 (財) 三江会館 (三江公所・二箇所)
- 14 (社) 神戸福建同郷会
- 15 兵庫県江蘇省同郷会
(歴代会館名・地図にはない)
- 16 兵庫県山東同郷会
- 17 兵庫県広島同郷会
- 18 プレート「孫中山先生大アジア主義
講演の地」(兵庫県立第一高等女学校
跡・現兵庫県庁正門裏側御座)
- 19 孫文先生之像、黎明之灯の碑
- 20 神戸南京町商店街振興組合 (仮議院)
- 21 神戸南京町
神戸外国人居留地跡の碑
(1967年建立)
- 22 諏訪山稻荷神社
- 23 旧「中華学校(三江公所)」所在地
- 24 旧「駐神戸中国領事館」所在地
- 25 旧「神阪中華公学(華僑学校)」所在地
- 26 旧「神戸華僑同文学校」所在地
- 27 旧「神阪中華義荘(宇治野村)」所在地
- 28 旧「神戸中華俱樂部」所在地(二箇所)
- 29 旧「麦少彭邸」所在地
- 30 旧「呉錦堂邸」所在地
- 31 陳舜臣小説「三色の家」の所在地
- 32 孫中山記念館(2000年移築完成) [旧「呉
錦堂別邸」・旧神戸中華青年会(二箇所)]
……旧居留地 (1869年1月~1899年7月)



■開館時間... 10:00
 ■閉館時間... 17:00
 ■休館日/毎週水曜日
 特別割引
 学生 200円
 一般 300円

制作：神戸華僑歴史博物館
 神戸市中央区海岸通3丁目1-1 KCCCLJ2F
 TEL.(078) 331-3855